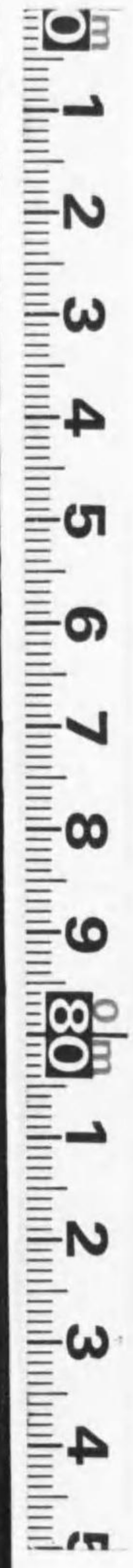


678.22
H 99

678.22-H99ㄅ
1200500750567

矢庫縣興亞貿易協會編
泰國現地報告 泰國主要輸出物資に就て
第二號 泰國主要物資の對日輸出過程



始



昭和十六年十二月二十三日 盤谷發報

兵庫縣興亞貿易協會
南洋派遣調査員

田 中 宗 雄

泰國現地報告(第二號)

泰國主要輸出貨資に就て
泰國主要物資の對日輸出過程

附 泰米に關する最近統計表

最近三ヶ年泰國貿易統計表

納本

兵庫縣興亞貿易協會

678.22
H99

はしがき



本稿は本會派遣南洋調査員田中宗雄氏が、現下日泰産業、經濟關係の重要性に鑑み、泰國主要輸出品に就き詳細に検討し、之が對日輸出過程の各般に亘つて精査した現地報告であつて、既報「日泰貿易と在泰邦商の現況」の續編である。

昭和十七年一月



南洋調査員田中宗雄氏

933
30

目次

一、泰國主要輸出貨資に就て……………一四

二、泰國主要物資對日輸出過程……………一四

三、附表第一 最近三ヶ年泰國貿易關係統計表……………二五

 一、最近四ヶ年泰國輸出入金額表……………二五

 二、泰國主要輸出入品別表(一九四〇年一月—三月)……………二五

 三、泰國主要輸出品數量、價格及單價表(一九四〇年一月—三月)……………二六

 四、最近泰國主要輸出品目表……………二六

 五、最近泰國主要輸入品目表……………二七

 六、最近三ヶ年輸入國別表……………二八

 七、最近三ヶ年輸出國別表……………二九

 八、最近三ヶ年泰國貿易國別比率表……………二九

 九、香港、彼南、新嘉坡の三港より直接又は積替へにて泰に輸入せられたる金額……………三〇

 一〇、盤谷船舶出入表……………三一

四、附表第二 泰米に關する最近統計表……………三二

 一、最近十ヶ年泰國「米」生産表……………三二

 二、最近十ヶ年泰國「米」輸出表……………三二

 三、佛曆二四八三年に於ける輸出米課稅價格と輸出稅率表……………三三

 四、最近四ヶ年盤谷に於ける米相場表……………三三

 五、最近四ヶ年泰米輸出國別表(一九三八年—一九四一年)……………三四

泰國主要輸出物資に就て

泰國主要輸出物資は米、錫鑛、ゴム、チーク材であつて、この四種品目の占むる割合は、輸出總額の九〇%に近い、就中米は最重要輸出品であつて、その輸出額は全體、輸出總額の五〇%を占めてゐる。

以上四品目の外に年額百萬銖内外から二百萬銖内外の輸出品としては「チーク材」以外の木材（主としてヤーン材）、「皮」（水牛皮、黄牛皮及少量の鹿皮）、ステイツク・ラック、「鹽」及「鹽魚」がある。更に小口の輸出品としてはウォルフラム鑛、「大豆其他豆類」、家鴨卵、生牛及家畜家禽類、樹脂類、檳榔子、カーダモム、コブラ、生菓實及乾菓實類、寶石類、「牛骨」、象牙、ヤーン油、カボック、棉花、木炭、マンダローブ樹皮、種子類、チリ、燕巢、玉葱、鮮魚等々農林産品とした各種品目があるが、その輸出額は多くも年額五十萬銖を出せず、尠きは數千銖乃至一萬銖内外に過ぎぬので特に問題とするに足らぬ。

農産品で今後注目に價するものはジユートであらう。但し現在は北部地方でその栽培が獎勵されてゐるが未だ試験時代に屬し且つ産額も多くない。然し泰政府はガンニー・バッグ自給自足の立場から力を入れて居る。

米、錫鑛、ゴム、ジユートに對しては輸出許可制を採用してゐるが此内ジユートは事實上輸出禁止である。

工業產品の輸出に至つては泰の工業未發達の關係から殆んど見るべきものなく、僅かに燐寸、つけぎ揉皮及び北部特産の黒染絹反物位であるが外にセメント、タバコの輸出も少量とみらる、但しセメントの輸出額はその輸入額の二〇%見當にすぎず、タバコに至つてはその輸入額の一二%見當に過ぎない、因みに泰國に於けるセメント生産能力は佛曆二四八一年の記録年額約九萬トンである、何れにしても泰の工業生産品の輸出はその總額年百萬銖内外で輸出總額の一%にも遙かに及ばず問題外である。

かくの如く泰は農業國であるが、茶、コーヒーを始めとし生、乾野菜類の輸入總額は年額三百萬銖に近いことは一應注意されてよく、事實、食用野菜類の如き都市近部に近時華僑の手によつて此等の農園が多少發達しつゝあるのみで一般にタイ農民は「米作り」専門の如くに見受けられる。

以下主要輸出品に就てその概要を述べやう。

一、米

米は佛曆二四七四年—佛曆二四八三年の過去十年間平均植付面積は二一、〇四三、九五五ライ（一ライ＝六〇〇平方尺、二・五ライ＝一エーカー）であるが、十年間平均被害面積二、八四六、六六九ライ、差引一八、一九七、二八六ライが收穫面積となつてゐる、これより收穫された扱は年平均七五、七六七、四五六ピク（一ピクは六〇キログラム）で白米にして五六、八二五、五九一ピクとなる、而して同上十年間に於ける米輸出平均年額は二五、八四八、三一五ピクであるから泰産米の約四十五%が輸出される譯である、但しこれは十年間の平均比率であつて毎年の豊凶及價格の高低により各年度別にみれば輸出量に相當開きのあることは勿論である。

かくて過去十ヶ年平均に於て米は金額にして約九千三百五十萬銖の輸出を毎年行つた譯になるのである。（最近十年泰國「米」生産表及最近十年泰國「米」輸出表参照）

泰國の米は一毛作である、灌漑の改善、生産技術の改良等により二毛作は氣温の關係から可能であり、米産量も今後施設改善によつて激増し得る可能性充分である、而して泰政府も灌漑施設に關しては毎年相當の努力を拂ひつゝある。

從來、米は泰農民が作り、その蒐貨、精米、輸出等は華僑の手に殆んど壟斷され、泰農民大衆は年と共に瘠せて行くとせられた、然し（佛曆二四八二年）三年前泰米會社（Thai Rice Co, Ltd.）が大部分泰政府の出資により資本金五十萬銖で設立されて以來、同社は急速の發展を遂げ、現在資本金百五十萬銖、政府監督下に泰米の蒐貨、精米、輸出の各業務を營み、華僑の米界に於ける勢力を著しく驅逐しつゝある。（因みに麻袋の製造計劃も同社によつて着手されてゐる）

現在盤谷には精米工場（註）「Commercial Directory for Thailand, B. E. 2484」によれば盤谷精米工場数は五十八、泰米會社所有精米工場は十一となつてゐるが右は資料稍々古きもの、如く、現在盤谷精米工場五十二、泰米會社所有工場十五は三菱盤谷支店の調査によつた。五十二を算するが泰米會社はこの内十五工場を所有し、その精米能力一日約三千噸と稱せられ、盤谷全精米工場の精米能力一日約五千噸の過半を占めて居る。（因みに全泰精米工場數「盤谷を除く」は最近六百を超えてゐる）

尙昨年（一九四〇年）九月一日より泰米會社は積極的活動に入りその發表する米相場は盤谷標準市價¹從て全泰米の標準市價²とされるに至り現在に及んでゐる。

泰米會社の發展により華僑の米界に於ける勢力は逐日驅逐されつゝあるが、然し乍ら泰米會社の設立によつて、それが直ちに泰農民の利益増加とはなつてゐない、即ち最近四ヶ年の粳と白米相場に就てみればA表の示す如く、白米市價と粳市價との開きは昨年九月以來却て大きくなつて居り、白米市價の著しき昂騰にも拘らず農民の賣る粳代金は必ずしもそれに比例して増加してはゐないことによつてそれが實證されるであらう。

A表 粳及白米平均市價表 (單位 Bath)

年別	NaSuan {No.1} Paddy	OneStar {White} Rice	差額	NaSuan {No.2} Paddy	TwoStaro {White} Rice	差額	Kao {Bao} Paddy	{Super} Rice	差額
1938年	2.41	4.52	2.11	2.20	4.40	2.20	2.24	2.23	1.99
1939年	2.11	3.99	1.88	1.90	3.92	2.02	1.98	3.79	1.81
1940年	2.62	4.77	2.15	2.41	4.67	2.26	2.60	4.51	1.91
(以上各年自一月至八月平均市價)									
1940年九月ヨリ									
1941年八月ニ至ル平均市價	4.54	8.13	3.59	4.26	8.01	3.75	4.21	7.65	3.44

(註) 1940年九月以降ハ Thai Rice Co. ノ發表ニヨル。
 Paddy (粳) 白米トノ差額ハ精米費、田減リ及精米利益ヲ含ムモノナラズ。精米費、田減リハ大體一定シテキルカラ、差額ノ増大ハ精米工場ノ利益増大ト一致スル譯ナラズ。
 以上ノ市價及差額ハスマター擔當リテナル、而シテ「ガソニー」及ビ税金ハ之ヲ含ソテ居ナイ。(一セクルハ60キログラム)

然し乍ら泰米會社は國策會社であるから今後斯る矛盾したる傾向は漸次是正されて行くであらう。尙最近の盤谷米相場、佛曆二四八三年に於ける輸出米課稅價格及輸出稅率は別表の通りである。更に泰米輸出國別表(別表)の示す如く泰米は從來主として馬來(新嘉坡及ビーナン)、香港を主たる仕向地とし、其他に歐洲、セイロン及印度、キューバ及西印度にも相當仕向けられたのであるが一四〇年來、日本及支那向輸出激増し本年は更に一段と増加してゐる。

(註) 泰米に關する統計は別表の如く各種蒐集した、本文と參照適宜利用されたし。
 本文には米の輸出稅、輸出價格、輸出國別等に關する記述を省略したが別表中必要の説明はしてある。

三、五 四

ゴムは専ら南泰に産するが南泰東部が特に主産地である。「ゴム園」の面積は最近約九十萬ライと推算されてゐるがその主たる分布は次の如くである。

南泰西部	トラン縣(Trang)	約一〇萬ライ
南泰東部	ナラダイバ縣(Narathiwat)	約二〇萬ライ
同	ヤーラー縣(Yala)	約一五萬ライ
同	ソングラ縣(Songkha)	約一五萬ライ
同	パタニー縣(Patani)	約八萬ライ
其他南泰		約二二萬ライ
合計		約九〇萬ライ

泰のゴム園は外國資本によるエステートもあるが大部分は華僑又は土着資本による郡小ゴム園より構成されてゐる、而して樹齡も十五、六年までのものが多く、製造技術も概ね幼稚であつて、泰産ゴムは「ベトン」産品を除けば概ね品質劣等であり、例へば Good F.A.Q. と稱するもその實質は F.A.Q. 乃至 Law F.A.Q. に屬するが普通とされてゐる。

而して生産量は馬來の一割にも及ばないし品質に於ても遙かに劣る、泰は國際ゴム生産制限協定 (The International Scheme of Rubber Restriction) に加盟して居り一九四一年に於ける割當量は五萬一千八百トンである、然し本年六月現在、某邦商の推算によれば本年泰國ゴム實際生産高は四萬八千トン見當としてゐる、而も其後の経過はこの見積量より更に減少せるものの如くである。

泰國はゴム加工工業が何等發達してゐない關係からその生産せるゴムはすべて輸出に向けられる、最近のゴム輸出額を見れば次の如くなつてゐる。

佛曆	數量	キログラム	金額	バーツ
佛曆二四八一年	四七、三〇八、七九八		二五、一〇一、〇七	
同 二四八二年	四二、一八一、一九三		三〇、一六六、六九一	
同 二四八三年	三〇、〇二四、一四八		二六、五一三、五三一	
同 二四八四年	二一、二七二、七四三		二一、九四六、一七七	

(註) 二四八三年は A.D. 一九四〇年四月一日より十二月廿一日に至る九ヶ月を以て終る、二四八四年の數字は本年一月一日より六月末日までの統計である、但しこの數字には四月一日より六月末日に至る三ヶ月間の馬來向輸出が脱落してゐる、馬來向年初三ヶ月の輸出は數量六、六四四、〇二四キロ、金額四、九三四、九四六バーツである。四月頃より南泰に於ける日英ゴム争奪戦は激烈に行はれ我方に凱歌が擧つてゐるから、これを考慮すれば四月以降の馬來向(主としてピナン及シンガポール)ゴム輸出は相當減じてゐる筈である。

泰のゴム輸出は從來久しく殆んど馬來向行はれてゐた、最近の統計にみても佛曆二四八一年及二四八二年共に殆んど九八%見當は馬來(仕向地は新嘉坡及ピナン)に向け輸出されてゐるのである。然るに昨年來、日本向及支那向輸出が急増し本年に入つては日本向輸出は正に壓倒的激増を示してゐる、かくて馬來向輸出は從來に比し略々半減乃至それ以上の激減に轉落したのである。

ゴムの輸出税は一率に従價七%であるが昨年(ウエースト)に於けるゴム輸出課税價格は次の通りであつた。

年	ゴムの輸出税	ゴムの輸出税
一九四〇年	〇・七六	〇・七六
四月一日より六月卅日迄	〇・七六	〇・七六
七月一日より九月卅日迄	〇・七二	〇・九六
十月一日より十二月卅一日迄	〇・七四	〇・九八

(註) 右單位はバーツ、而して一キログラムに對する價格である、尙本年に入つてゴムは一段と昂騰してゐる。

三、錫

錫も泰の南部に産し從來其の西岸地方が主要産地であるが、近年東岸地方に於てヤラー附近に有力な鑛區が開發されてゐる、泰に於て稼行されてゐる錫鑛區面積は佛曆二四八二年三月末現在、十六萬七千五百十三ライと記録されてゐる、南泰西部に於ては「ブーケット」、「タクアバ」、「ラノン」、「トラン」、「バンガ」(Pang-nga or Bhang-nga)の各地方が主要産地であり南泰東部に於ては「ソングラ」、「ナコーン・シータマラート」、「スーラート・タニー」、「ヤーラー」、「パタニイ」、「チュンポン」等を産地とする、此の外半島泰の北部、「ラプリー」(Rajpur)にも産するが其量は僅少である、而して南泰西部の産額は泰全産額の約六五%を占め殘餘が殆んど東部に産する、更に採掘方法に従へば泰

の錫全産量の約六〇%がドレッヂャーによつて採取されて居り、約四〇%がボンピング、坑道掘、其他在來の方法によつて行はれてゐる。

國際錫委員會 (The International Tin Committee) によつて決定せられたる泰國の錫輸出割當量は一九三七年以來年額一萬八千五百トンであるが爾來泰の生産量は常に右割當量に達せず、最近の好績を示した一九四〇年に於ける錫鑛生産額は二九一、七九八擔、輸出數量一萬七千七百八十九トンで割當量より尙七十一トン尠し。

最近三ヶ年に於ける錫鑛輸出額は次の如くである。

年 度	錫 鑛 (單位ピクル)	同上錫含有量 (單位ピクル)	價 格 (單位バーツ)	單 價 (單位バーツ)
佛曆 二四八一年	三三九、三六二	二四四、三四一	三〇、八一三、七六二	一一六・一一
二四八二年	三八三、四四三	二七六、〇七九	四一、三三一、三六九	一四九・七一
二四八三年	三〇八、〇一一	二二一、七七五	三七、四六六、八七八	一六八・九四

(註) 二四八三年はA.D.一九四〇年四月―十二月の九ヶ月である。

單價は一擔當りである、一擔は六〇キログラム。

二四八一年はA.D.一九三八年四月―一九三九年三月まで、二四八二年はA.D.一九三九年四月より一九四〇年三月までであること屢説の通り。

更に國際錫委員會の割當年度に従へば同年度輸出額は次の如くなる。

割當年度	錫 鑛	同上錫含有量	價 格	單 價
A.D. 一九三八年 (一月―十二月)	三一八、〇三三擔	二二八、九八四擔	二七、二〇二、八七九銖	一一八・八〇銖
一九三九年	三九四、二一三	二八三、八三三	四一、一一八、二九三	一四四・八七
一九四〇年	四〇五、二七五	二九一、七九八	四八、四二六、七二二	一六五・九六

泰は國內に錫精煉所を有しないので錫鑛のまま輸出される、仕向地は從來殆んど百パーセント、新嘉坡及ビナンに向けられた、試みに最近四ヶ年の輸出地域別を示すと次の如くである。

仕 向 地	佛曆二四八一年	同 二四八二年	同 二四八三年	同 二四八四年
馬 來 (ビナン及新嘉坡)	三三九、三六二擔	三三三、四四三擔	三〇一、〇一九擔	八二、七八四擔
其 他	二六	一四一	七、〇〇二	一九、一七六
合 計	三三九、三六二	三三三、四四三	三〇八、〇二一	一〇一、九五七

(註) 佛曆二四八三年は一九四〇年四月より十二月に至る九ヶ月。佛曆二四八四年の數字は本年一月より六月に至る六ヶ月間の輸出額である、但し馬來向輸出額は本年一月より三月に至る三ヶ月間のもので四月―六月の三ヶ月分は含まれて居らぬ。

右表は數量に關するものであるがこれに對する金額は次の如くなつてゐる。

仕 向 地	佛曆二四八一年	同 二四八二年	同 二四八三年	同 二四八四年
馬 來 (ビナン及新嘉坡)	三〇、八一三、三一七銖	四一、三一五、二四銖	三六、六〇一、五六八銖	一〇、六二〇、九一〇銖
其 他	一、四四五	一六、一四五	八六五、三一〇	二、三七二、三九七
合 計	三〇、八一三、七六二	四一、三三一、三六九	三七、四六六、八七八	一二、六二〇、三三三

右二表によつて明らかなる如く昨年來、馬來以外の地域向輸出が激増してゐるが其大部分は日本向の増加に原因する。

抑も泰の錫鑛業はゴム園と異りその大部分が英系資本に直接、間接連關を有して居る、新嘉坡には新嘉坡政廳直營の大錫製煉所あり、その他馬來にはビナン及びコーランポウに民營錫製煉所があり、これらは殆んど英系に屬し、泰國錫鑛に直接投資を行へる外、間接的には各錫鑛主に資金の前貸、所用機械工具及動力用油の供給等を行ひ、密接不離の關係を有し、かくて泰國産錫鑛の殆んど百%を吸

收してゐたのである。かゝる事情の爲め昨年来、我國が泰産錫鑛の收買を行ふに當つては、英國側の妨害甚だしく苦戦一方ならず、その收買を擔當する邦商の苦心は「ゴム」戦に於けると同様に甚大なものがあつたのである。而してその戦法は高値買ひの方法によらざるを得なかつた。然し努力は酬られて本年に入るや、錫の收買も亦比較的好績を示した、ゴム戦に於けるが如く壓倒的勝利とまでは行かないが、これは「錫」と「ゴム」に於ける現地事情の格段の相違によること既述の如くで、又止むなき次第と云はねばならぬ。

因みに邦商經營の錫鑛はナサン(南泰)に三菱經營のものあり稼行中であるが産量未だ多からぬ。三井もタクアバ河上流地域で目下ボーリング中と云はれてゐるが採掘許可問題に關しても行惱みがあるものの如くである。

尙泰の錫埋藏量は頗る豊富と云はれてゐるが泰國政府は資源の延命策をとつて容易に新規採掘を許可しない方針の如くである。

四、チーク材

チーク材チークは北部泰を主産地とする、稍詳細に云へばチーク林帯の主帯は北緯一七度より北部國境、東經九七度半より一〇一度半の間に介在してゐるが又メーナム、チャオ、ブラヤーの西側にも北緯一四度以北に小林が点在し同河東部にも二、三の分帯が南進して北緯一五度に達してゐる、チークは樹周七呎を以て伐採可能樹の最少標準と見做され、現在施行せられてゐる森林法の規程尺度となつてゐる、泰に於けるチーク樹の實際蓄積量を政府が主要河川の排水地域別に新伐採契約によつて「卷枯し用」に選出した樹数は約百十七萬本見當と云はれる。最近七ヶ年のチーク伐採租借面積及各年

伐採量を示せば次の如くである。

年 度	伐採租借面積 (單位ライ)	伐採樹數 (單位本)	チーク材生産量 (單位立方米)
佛曆二四七五年	三九、八六八、七五〇	八七、〇九三	一八四、六三七
同 二四七六年	三九、八六八、七五〇	八二、三九五	一七四、六七八
同 二四七七年	三九、八六八、七五〇	七九、六九四	一六八、九五二
同 二四七八年	三九、八六八、七五〇	一〇一、九〇八	二一六、〇四五
同 二四七九年	三九、八六八、七五〇	八五、五一七	一七三、七二一
同 二四八〇年	三九、八六八、七五〇	九八、〇六九	一六四、五六〇
同 二四八一年	三九、八六八、七五〇	八四、一一九	一五一、四三一
次に最近六ヶ年のチーク輸出額をみると次の如くである。			
佛曆二四七八年	價格(單位銖)	數量(單位キヌーピ)	單 價(噸當り) (單位銖)
佛曆二四七八年	五、〇五二、二一七	四四、五三一	一一三、四五
同 二四七九年	八、六五一、七三〇	七〇、七一七	一二二、三四
同 二四八〇年	九、一一二、一二六	六六、六四一	一三六、七三
同 二四八一年	六、六九四、二〇五	五八、三〇六	一一四、八一
同 二四八二年	七、七六五、〇〇八	六三、七二八	一二一、八五
同 二四八三年	四、五三〇、三〇八	三四、五二八	一三一、二一

(註) 二四八三年は既述の如く九ヶ月で終る。

チーク材は他の米、錫、ゴム等と異り歐戰の結果、著しい價格の昂騰をみてゐないのは主要なる仕向地歐洲及阿弗利加方面への輸出が船腹難と運賃、保險高の爲め困難な事に原因する、更にチーク業

者は盗伐にも憚まされてゐるから、近來頗る恵まれない状態にあると云へる。
 尙近年、農業省及國防省の管下で政府事業として「ランバン」、「ブラー」、「タック」地方でチーク伐採が行はれてゐるがその伐採樹數は總伐採數の一〇%以下である、チーク伐採權の大部分は英系、デンマーク系、フランス系、支那系等外國資本系に把握されてゐる。
 チーク以外の木材輸出額は最近次の如くである。

年 別	輸出金額(單位銖)
佛曆二四七八年	八六七、一八二
同 七九年	一、〇四五、七九五
同 八〇年	一、一六五、二九三
同 八一年	八三一、五五〇
同 八二年	一、〇六二、七〇一
同 八三年	九五三、四五三

最後に最近二ヶ年のチーク材輸出國別表を示せば別表の通りである。

國 別	B.E. 2481年(1938-1939)		B.E. 2482年(1939-1940)	
	數量 トツ	金額 パーツ	數量 立方米	金額 銖
錫 蘭	5,507	434,579	7,215	495,840
丁 抹	1,869	280,683	6,049	569,419
香 港	9,649	676,987	14,306	853,729
日 本	3,143	559,307		542,259
和 蘭(本國)	1,384	215,355	4,356	601,430
葡領南東阿利加	5,769	672,522	8,413	653,783
新 嘉 坡	7,895	780,698	11,511	918,118
瑞 典	2,603	414,146	4,634	509,413
南 阿 邦	6,184	779,971	12,274	1,172,024
英 本 國	5,429	718,245	4,785	460,419
其 他	—	—	—	—
合 計	58,306	6,694,205	88,796	7,885,209

泰國主要物資の對日輸出過程

泰の對日輸出主要物資は米、ゴム、錫鑛の三品目である、此の外にチーク、ウォルフラム、ステイツク・ラックも日本の需用する物資ではあるがチークは兎も角として其他は産量も尠く、對日輸出も從て微々たるものである。

一、米

米の對日輸出は現在三菱商事株式會社が唯一の代行者として之に當つてゐる、その收買方法は主として泰米會社 (Thai Rice Co., Ltd.) を通じて直接行ふので比較的單純である、問題は泰米會社と三菱との關係如何に存するがそれは現在良好である、但し泰米會社は單に日本向輸出米のみならず各國向米輸出を行つてゐるので泰米會社の蒐米が對日輸出にのみ振向けられるものに非ざることには申す迄もなからう。尙三菱はこの他華商精米所よりも少量の買付を行ふことがあると云ふ。

收買價格は泰米會社發表の標準相場よりは常に或程度高きを常態とする、蓋し泰米會社發表相場は籾買付關係を顧慮して幾分内輸に相場をつける模様で、泰米會社の賣値段は標準建値よりは或程度高きを普通とするに因る、而してその程度は概ね數%見當のもの云はれる。

三菱の外、三井物産株式會社も泰米會社を経て米收買の資格を有してゐるが、その收買米の輸出は支那特に南支向に限られてゐるので、對日輸出代行者ではない。

泰米の對日輸出は昨年來順調なる経過を示してゐることは既述の通りである。

尙泰米の收買及對日輸出に關しては盤谷駐在農林省柴野書記官が監督指導して居られる。

對日輸出米の出盛り期は概ね十一月より三月に至る間を主とする。

尙現在以上、泰米の對日輸出が増加し或は減少するもそれは一に今後の國際情勢の如何にかゝると關係商社は觀察してゐるやうである、このことは現況に於ける限り米の對日輸出量は略々その限界に達してゐるものと想像される次第である。

(註) 「米」指定商として三菱、三井の兩社を挙げたが米收買に關する限り兩社が指定されてゐるが、その收買米の輸出は本稿記述の如き關係にあり、從て對日輸出代行商社としては「三菱」一社である、既報「日泰貿易現況」の記述は稍々不明確であるからこゝに再び事情を詳述して置く。

二、F

4

ゴムの對日輸出代行商社は「三井」、「三菱」、「大同貿易」、「野村合名」の四社である、輸出商の下部組織としてゴム收買のみに當るものに大谷洋行、大南公司、S・Kカンパニーの三社がある。以上七社を以て「泰國日本人ゴム同業會」を組織し相互の懇親とゴム對日輸出、業務の圓滑なる遂行を期してゐる、同會理事長は現在三井物産盤谷支店、副理事長は大同貿易盤谷支店である。

ゴム收買に就ては盤谷の在荷を直接又はブローカーを通じて收買する場合もあるが、各社は等しくゴム主産地たる南泰東部方面に出張所乃至駐在員を設置して自ら收買を行つてゐる。

かくて邦商に收買されたるゴムは盤谷に於ける夫々輸出商社のゴム撰別工場にて撰別され、夫々の等級に仕分けられ泰國政府の輸出許可を得て日本向輸出されるのである。

泰國産ゴムの等級は

No. X, Chinese Prime, Good F.A.O., F.A.O., Law F.A.O., OffSet,
Cutting

の七種にわけられるが No. X は先づ皆無で、普通取引されてゐるのは主として Good F.A.Q. 以下の品質に屬する、實際取引に於ては A クラス品及 B クラス品として、A クラス品は Chinese Prime, Good F.A.Q., F.A.Q. の三種混合のもの、B クラス品は Good F.A.Q., F.A.Q., Law F.A.Q. の三種混合のものであつてその混合率は概ね次の如くである。

A class	Chinese Prime	20%
	Good F. A. Q.	40%
	F. A. Q.	40%
B class	Good F. A. Q.	20%
	F. A. Q.	40%
	Law F. A. Q.	40%

然し乍ら兎角下級品の混入が高率の場合が極めて多いと云はれてゐる、オフセット及カツティングはゴム撰別工場で撰別の場合生ずる屑ゴムである。

A クラスと B クラスとの値開きは普通百キロにつき二銖。

泰に於けるゴム相場は百キログラム建である、十一月ハデアイに於けるゴム相場は A クラス品、最高百五十九銖まであつて、月末百三十二銖見當で取引が行はれてゐた。

ゴム相場は「クーボン」付が原則であるが「クーボン」の相場も亦別に内面的に建てられて居り、本年の如くゴム生産減の場合はクーボン過剰となりて暴落し、一時百キロの「クーボン」二十五銖内

外を唱へたものが十二月初旬には僅かに四銖と云はれてゐた、従て「クーボン」と「ゴム」を別々に思惑し「ゴム」で損をしても「クーボン」で利益を得て結局有利な取引をする場合もある、或は逆の場合もある。但しかゝる取引は概ね華商、邦商、タイ商を問はず概ねブローカー級の商社に限られ、堅實な商社がかゝる違反取引は行はない。

兎もあれ、ゴム相場は相當荒く、特に今年南泰に於ける如く、日英ゴム争奪戦とも云ふべき特殊事態を發生したる場合は端倪すべからざる「動き」を示してゐる。

相場の動き荒い商品に投機的取引は附物である、一般にゴム取引は投機的であり且つ巨資を要する。産地に於ける邦商の買付は必ず先づ或程度の手附金を賣主に交附するを常とする、然し南泰第一のゴム集散地たるハデアイに於ても華商ゴム商の資力は最高二十萬乃至三十萬銖と云はれ、十萬銖以下のゴム商が普通であり而も彼等中には投機、違約常習者も尠くない、一方邦商は直接「ゴム園主」より買付くる場合殆んどなく、若しあつても其間にはブローカーが介在してゐる、一般には直接又はブローカーを通じて(註)南泰のゴム問屋は殆んど華商であるがハデアイでは泰の商業會議所がゴム商賣をやつてゐる。華商ゴム問屋より買付けるを常態としてゐる、従つて相場の動搖激しき場合は種々危険を感ぜざるを得ないが之が對策としては取引關係者の人選に重きを置く以外にないやうである。かゝる場合信用し得る華人(乃至華人系タイ籍民)が最も成績良好と云はれてゐる、一見危険の如くあつても事實上、今日まで殆んど問題は起つてゐないが要するに邦商はゴム收買に當つて所謂「腹一つ」の商賣を敢行してゐる譯である、石橋を叩けば收買は殆んど不可能とされ止むなき次第である。

南泰東部のゴム園はチュンボン (Jumbhorn) 以南、南下するに従て益々多きを見る、ハヂヤイを中心として南泰の鐵道沿線の小都市(都市と云ふよりも貧弱なる村落と云ふのが正確である)は概ねゴムの集散地であるが、鐵道沿線のゴムは主としてハヂヤイに集散し、之に次いでヤラーに集まる、バンナラ方面のゴムは殆んどバンナラに集注する、この外馬來との中央國境「ペトン」方面のゴムは泰國産ゴム中最優良品であるが、すべて「ペトン」に集注しビナンへ仕向けられる、蓋し地理的關係、其他の事情にて現地に就てみれば當然のことと考へられる。

聊か横筋に入るがこゝで一言、南泰に於ける日英ゴム爭奪戦にふれて置かう。

爭奪戦の熾烈を極めたのは大體今春以降のことで、筆者が現地を視察した十一月下旬、ハヂヤイ驛前のステーシヨン・ホテルには英國の手先たる E. A. C. (East Asiatic Co., Ltd. デンマーク系) の出張員と邦商(大同及鐘紡サービス)の駐在員と吳越同舟で爭奪戦をやつてゐた。

ハヂヤイの街は人口五、六千、ゴム景氣で活況を漲らす新興都市であるが、邦商は三井、三菱、野村、大同、大南、ミトラ・パニット、鐘紡サービスの七社が出張所又は駐在員を設置してゐる、ゴム收買に活躍してゐるのは三井、三菱、大同を主とするが何れも敵は E. A. C. である、E. A. C. は爭奪戦を邦商に挑むや常に邦商の買値より一銖乃至二銖の高値のオツファを出し、専ら邦商の收買を妨害するを目的とした、之に對し邦商は夫々相連絡し、涙ぐましい努力をつゞけて敵の虚をつき、龍虎火花を散らして争ふの凄慘なる場面を現出、結局邦商に凱歌は擧つたのであるが、その間の苦心は實狀を見ざる人には一寸想像出來難いであらう。

尙 E. A. C. の手で或程度收買を行つた英國側はこれをすべてビナンに送り更に相當の利益を得てソ聯に賣つたと云はれ、その確證もある、彼等から云へば一石二鳥と云ふところであらう。

南泰東部ゴムの三大集散地の内、ハヂヤイは日英ゴム戦の中心地で最も熾烈を極めた。蓋しハヂヤイは年額推定二萬トン乃至二萬五千トンを集散する南泰第一のゴム市場であるからだ、バンナラに至つては殆んど邦商の獨占場であつた。

ヤラーには三井の駐在員、大南の出張所あり、外に大谷洋行も支店を有するがこれは専ら雜貨の卸小賣を營みゴム取引には關與してゐない、バンナラには大同貿易出張所を始め大南公司、野村合名も夫々出張所を設置、外にバンナラ在住二十餘年の芝洋行ありて専らブローカー的立場でゴム收買に貢獻してゐる。

バンナラ及バタニーには華商の經營するクレープ工場あり、特にバタニーのそれは月産額約二百トンの能力を有し屑ゴムを再製して Blanket crepe 又は Bark crepe を作つてゐる、大同、三井夫々或程度の取引を有する、但しバタニーには大同貿易の代理店格の芝洋行(バンナラ芝洋行分身)あるのみで他に邦人ゴム商は常駐してゐない。

かくて邦商によつて南泰で收買せられたるゴムは主として汽車積で(時として船積による場合もあるが極めて稀である)盤谷へ送られるのである。

因みに南泰には邦人經營のゴム園として南洋企業株式會社(本社東京)のバイ園(タンジョンマー附近)及ペトンのゴム園あり、兩者合して現在月産十五トン未滿の生産を行つてゐるがこれが唯一の邦

人ゴム企業である。

三、錫 鑛

錫鑛の收買はゴムのそれに比し著しく事情を異にする、佛曆二四八四年發行の“Commercial Directory for Thailand”によれば現在泰に於ける主なる錫鑛業會社は四十九の多きに達するが殆んど英系であり又華僑系である、而して泰國には錫精煉所なく從來泰産錫鑛は殆んど百パーセントピナン又は新嘉坡に輸出されそこで精煉される、昨年来邦商が錫鑛收買に努めたが大部分の錫鑛區は直接、間接英系資本の束縛の下にあること既述の通りで、僅かに高値買の方針で英國側收買網の間隙を覗ふの外なかつたやうである、郡小の錫企業家は當然その目標となつたわけであるが、泰産錫鑛對日輸出代行者(ウォルフラムをも含む)三井、三菱、昭和通商株式會社の三社の下に阪口商店、大南公司、S.Kカンパニー、南洋商行、ミトラバニット及張益全公司(臺灣人とタイ人共營と云々)等の下受業者あり、三代行商社自ら或は下受業者を通じて收買に當つてゐる、錫鑛に就てはゴムの如く纏りたる集散地は殆んどないので、各商社南泰に於ける夫々の特殊關係地區に於て小錫鑛主より收買し或はブローカー的華商乃至タイ商等を通じて收買するのである。

英系錫鑛業者の產品は一定値段で全産量を英國の手で收買するので、値段に拘らず他に流出しないが其他の錫鑛業者は高値につられて錫鑛を結局邦商側に賣つたのである、尤も邦商側買値段も協定値段が採用され無制限に値を上げる譯ではないが、而も英國側の收買價格に比し相當高率のプレミアムを支拂ふの餘儀ない事態である。

かくて本年は昨年收買量に比し六月迄に既に三倍以上の好績を示して居り、其後の邦商の活動も頗る活潑であるから豫想外の多量收買に成功してゐると考へてよいのである。

收買錫鑛は泰國政府の許可を得て對日輸出することを米、ゴムと異らない。

尙三菱のナサン錫鑛は既に稼行されてゐるが産量尙多からず、三井鑛業がタクアバ川上流でポーリング中と稱せられる錫鑛は未だ採取の運びに至つてゐない、この外には邦人の錫企業に關するものは現在ないのである。

ウォルフラム鑛も多少對日輸出をみてゐるが收買過程は錫鑛と大差なく、尙ウォルフラム鑛はその中に含有する錫を四%以下に除去せねば「ウォルフラム」鑛として輸出出来ないので一擔當り四銖乃至五銖の費用をかけて分鑛作業を終りたる上輸出する、分鑛工場は盤谷に邦人經營一、日泰合同經營一あり夫々能力一日一トン餘である。

(註)

「泰國主要輸物資」並に「泰國主要物資の對日輸出過程」の二報告書は筆者の實査を中心とし特にゴム、錫事情に就ては十一月廿六日より十二月二日まで約一週間南泰方面に出張調査を行った。

尙參考資料としては左の如きものを採用した。

Report of the Financial Adviser in connection with the Budgets of the Kingdom of Thailand (B.E. 2484)

Commercial Directory for Thailand (B.E. 2484)

Report on the Commercial and Economic Progress of Thailand for B.E. 2482.

Statistical Year Book Thailand No. 20 (Published May, 1941)
 Annual Statement of the Foreign Trade and Navigation of the Kingdom of Thailand (B.E. 2482)
 Bangkok Market Report (from April, 1940—to July, 1941) by The International Chamber of Commerce.

尙邦人側の資料は各關係業者に就て局部的に得られるのみで纏つた印刷物等は得られなかつた。泰政府關係當局に就て説明を書く必要もあつたが時局柄遠慮すべきであつたので、見合せたが補足は他で償へるだけ償つた。

大體、泰國にも統計資料等は乏しく且つ不整備勝ちである、現在一切の地圖の販賣を禁止し、市内要所の寫真等も禁止してゐる位で相當神經過敏であるから、經濟關係諸資料の入手も直接泰政府當局に就て之をなすことは或人の注意もあつて見合せたので、例へば税關の貿易統計中の或數字とドル財政顧問の財政報告書の數字と同一問題で不一致の點もあつたが、これをつきとめずに適宜處理した、大局を観察する上に格段不自由なしとみてすべて不明確な點、不十分な點は適宜處理した、含まれし。

本文中%は概ね筆者の計算したものであるから間違つて居れば筆者の責任である、不備の點も多いが一應概要は盡したつもりである。

(後記)

十二月八日大東亞戰の展開によつて世界の情勢は大轉換をみた、大東亞戰劈頭の赫々たる皇軍の大戦果以來、日と共に着々戦果は擴大されつゝある、實質的に完全な英米依存を脱し得なかつた泰國も意を決して日本と攻守同盟を締結し大東亞共榮圈建設の一翼を擔ふべくその旗幟を鮮明にした、それは泰にとつては宿命的の大道であり、この大道に向つて發足した泰國現政府首腦の聰明は高く評價されなければならぬ。

今や泰は日泰攻守同盟に従つて皇軍と協力、大東亞戰を戦ひつゝある、同時に泰は斷乎としてその内面を顧み、泰國經濟の再編成に直ちに驀進すべきであり、しなければならぬ。

極めて最近まで「嚴正中立」を維持してその獨立と繁榮を企圖してゐた泰も、然し乍ら遠からず「嚴正中立」が困難であり端的に云へば日本につくか英國につくか、その態度を明白にすべき日の接近を感受しつゝあつたかの如くである、更に泰の心境を憶測すれば理念上、日本の實踐しつゝある大東亞共榮圈建設に参加すべき理解を有してゐても英米特に英國依存に終始した泰の經濟的理由がその宿命的の大道への發足をすら決意せしめ得なかつたと解せられる。而してかゝる推斷に誤ありとも思はぬ筆者は今泰國が新に直面する現實の諸問題特に重大なるべき經濟問題に想到して所詮急速なる泰經濟再編成の必至を痛感せざるを得ないのであるがこれは泰の自覺を第一條件とする。

大東亞共榮圈確立のためにはあらゆる困難を克服しなければならぬ、これは直ちに目的達成の爲めには如何なる犠牲も厭はぬ斷乎たる決意と實踐を要請する。

附表第一 最近三ヶ年泰國貿易關係統計表

1. 最近四ヶ年泰國輸出入金額表 (單位は Baht)

	B.E. 2480	B.E. 2481	B.E. 2482	B.E. 2483
輸出額	165,336,901	×200,713,537	212,446,749	181,104,400
再輸出額	4,155,903	3,708,551	4,106,967	4,736,708
輸出總額	169,492,804	204,422,088	216,553,716	185,841,107
輸入額	110,353,706	123,832,576	122,388,326	107,492,913
政府輸入額	{ 1,775,547	6,018,684	※ 72,516,417	17,483,528
通貨輸入差引	{ 304,772	220,529	300,621	162,533
	1,470,775	5,798,155	72,215,796	17,320,995
輸入總額	111,824,481	129,630,731	194,604,122	124,813,908
差引出超額	57,668,323	74,791,731	21,947,594	61,027,200
政府海外支拂額 (政府輸入中上記 外のものを含む)	15,586,753	19,058,191	10,858,022	19,837,910
以上差引受取超過額	40,081,570	55,733,166	11,091,572	41,189,290

(註) 單位は Baht. (Tcs.) ×は Tcs. 22,174,210 の銀塊を米國へ賣つた。

※は Tcs. 64,822,897 の金塊を英國より輸入した。

B.E. 2483 の政府海外拂 Tcs. 19,837,908 の内 Tcs. 10,926,972 は政府買入石油代金、約 Tcs. 4,000,000 は船舶購入代金である。

B.E. (佛曆) 2483 年は西曆 1940 年 4 月 1 日より同年 12 月 31 日に至る 9 ヶ月である。B.E. 2484 年より 1 月-12 月の 12 ヶ月を以て佛曆一年とすることに改正した。

B.E. 2482 年までは各年は前年 4 月 1 日より翌年 3 月 31 日に至る 12 ヶ月である。例へば B.E. 2482 年は西曆 1939 年 4 月 1 日より 1940 年 3 月 31 日に至るが如し。

2. 1940年及1941年自1月至3月 泰國主要輸出入品別表

輸 出	單位は Baht.(Tcs.)	
	1941年自1月至3月	1940年自1月至3月
米	49,198,202	31,121,324
ゴ ー ム	12,822,804	11,937,136
チ イ ー ク	1,384,173	2,252,802
錫 鑛	10,897,359	10,959,834
金塊及金貨	nil	542,806
其他商品	5,391,077	4,626,084
合 計	79,693,615	61,439,986

泰國經濟の再編成に當つても固より幾多の困難の存することを否定し得ないが斷乎たる決意の下に之を克服しなければならぬ、固よりそれに對して日本は能ふ限りの支援を惜しまぬであらうが何よりも必要なることは泰の「自覺」でなければならぬ。

今や各般の新情勢は日泰經濟關係にも根本的變革をもたらさんとしてゐる。極めて鄰近なる例であるが、大東亞戰の進展によつて單に馬來半島を制壓し終るのみで泰の「錫」と「ゴム」の存在意義は極めて稀薄になる、現に南泰ゴム産地に於ける「ゴム相場」は大東亞戰直前百三十銖見當を維持してゐたものが、今日六十銖に激落してゐる、勿論、南泰ゴム産地は一時的であるが戰場もなつた地點がある、戰爭に附隨する諸事情も多分に考慮されねばならぬが、一面、ハッキリと泰國ゴムの今後の運命を暗示するものと筆者は解する。

泰は米、錫、ゴムの三大商品の輸出によつてその經濟をたて、來たと云つても過言でない、米、錫、ゴムの市價激落は或は輸出の停頓は直ちに泰經濟の破綻を意味するであらうし尠くとも致命的創痕である。

泰國經濟の再編成は從てその性格的變革である、日泰經濟關係の根本的變革をもたらすことは必至であつて、こゝに日本としても充分の考慮と措置を拂はねばならぬと考へられる。

觀じ來れば、既報「日泰貿易現地報告書」及び今發送せんとする前掲二稿の如き、最早、「六莖十菊」であるが、既往の事實を識ることは新發展に對處する上に不要ではない、むしろ必須の條件でさへある、この意味で敢て「場違ひもの」ではあるが御一覽に供した次第である、(十二月二十三日記)

皮革	968,928	—	1,245,131	—	1,005,128	—
鹽	789,108	—	1,632,664	—	2,260,738	—
鹽魚	2,273,118	—	1,521,102	—	1,840,307	—
スチツクラツク	598,584	—	1,772,561	—	761,770	—
其他商品	7,562,314	—	8,763,318	—	8,940,516	—
金銀塊及金貨	× 27,661,554	13.53	3,762,860	—	3,208,379	—
合計	200,713,537	—	212,446,749	—	181,104,400	—
再輸出	3,708,551	—	4,106,967	—	4,736,708	—
輸出總額	204,422,088	—	216,553,716	—	185,841,108	—

(註) ×には Tcs. 22,174,210 の銀塊對米輸出を含む。

主要輸出品四品目(米、錫、ゴム、チーク)合計の對輸出總額比率は

B.E. 2481年は 78.17% B.E. 2482年は 88.87% B.E. 2483年は 87.22%

B.E. 2481 年は上述(註)の如き銀塊輸出ありたる爲め四品目の比率低下を示してゐる。

5. 最近泰國主要輸入品目表 (單位 Baht.)

一般商品	B.E. 2481	B.E. 2482	B.E. 2483
食糧品	16,797,943	14,871,028	13,653,378
ガニー・バツグ	5,329,701	12,963,976	6,651,298
機械	7,652,608	6,982,888	6,008,192
金屬製品	12,829,568	14,718,849	13,655,748
纖維製品(糸を除く)	24,930,076	21,164,886	20,279,817
煙草	4,297,445	2,159,871	2,232,667
石油	3,903,874	2,950,276	6,670,946
其他燃料油	6,477,008	5,984,292	10,093,930
化學製品	1,723,064	2,247,070	2,423,523
電氣用品	3,052,599	3,563,226	5,461,442
醫藥及賣藥	2,187,623	2,797,753	3,171,590
紙及紙製品	3,504,776	3,540,910	4,776,448
車輛	5,336,795	4,730,790	5,077,159
糸	4,632,268	4,190,333	2,993,027
其他商品	32,037,449	23,525,550	19,453,873
合計	124,692,797	126,391,698	122,543,038
麥酒、酒及酒精	1,669,015	1,807,059	1,488,634
金銀塊及金貨	2,332,146	※ 66,357,398	782,236

再輸出	1,200,983	1,060,589
輸出總額	80,894,598	62,500,575
輸入	1941年自1月至3月	1940年自1月至3月
一般商品	35,255,717	36,777,789
麥酒、酒、酒精	567,962	635,120
阿片	241,270	nil
金塊及金貨	156,421	321,119
政府輸入	3,331,526	3,524,157
輸入總額	39,552,896	41,258,185
輸出超過額	41,341,702	21,242,390

3. B.E. 2483及2484各 1月より3月に至る 輸出主要品數量、價格及單價表

		數量	金額	單價
米	B.E. 2483(自1月至3月)	7,516,063 Piculs	31,121,324 Baht.	4.14 Baht.
	B.E. 2484(")	6,930,932	49,198,202	7.10
錫 礦	B.E. 2483(自1月至3月)	97,254 Piculs	10,959,834 Baht.	112.69 Baht.
	B.E. 2484(")	88,034	10,897,359	123.79
ゴ ム	B.E. 2483(自1月至3月)	13,863,337 Kilos	11,937,136 Baht.	0.86 Baht.
	B.E. 2484(")	13,743,773	12,822,804	0.93

(註) 以上より噸當り London 相場に換算すると次の如し (但し F.O.B. Thai ports) (c.i.f. London に非ず)

	B.E. 2483	B.E. 2484
米 per ton	£ 6. 9. 10.	£ 11. 2. 7.
錫 礦 "	245. 7. 4.	269. 10. 8.
ゴ ム "	8. 65.d	9. 32.d

即ち 1941 年に於ては單價昂騰し其の傾向は四月以降更に顯著である。

4. 最近泰國主要輸出品目表 (單位 Baht.)

	B.E. 2481	對總額%	B.E. 2482	對總額%	B.E. 2483	對總額%
米	97,419,341	47.65%	113,299,984	52.21%	93,561,129	50.34%
ゴ ム	25,101,073	12.23	30,192,586	13.94	26,544,813	14.28
チーク	6,694,205	3.22	7,885,209	3.64	4,530,308	2.43
其他木材	831,550	—	1,039,965	—	953,453	—
錫 礦	30,813,762	15.07	41,331,369	19.08	37,497,859	20.17

7. 最近三ヶ年輸出國別表 (單位 Baht.)

	B.E. 2481	B.E. 2482	B.E. 2483
英 帝 國	14,509,516	22,058,262	16,543,875
香 港	21,602,035	24,063,339	26,809,063
ピ ナ ン	49,848,049	62,899,487	54,306,440
新 嘉 坡	62,698,922	61,787,408	45,416,971
日 本	3,492,879		
支 那	263,899	2,962,026	7,317,602
米 國 及 屬 領	※ 23,519,811	2,916,713	5,058,787
和 蘭 及 屬 領	5,946,731	6,254,591	2,145,405
西 印 度	6,466,459	5,701,036	1,101,009
葡 萄 牙 及 屬 領	1,729,453	1,859,887	969,948
獨 逸	6,164,831	3,228,099	6
佛 蘭 西 及 屬 領	1,976,500	568,958	347,637
丁 抹	593,899	1,672,182	472
白 耳 義	1,983,706	2,505,330	nil
瑞 西	27,910	555,123	568
其 他	3,598,056	4,562,686	369,052
合 計	204,422,088	216,553,716	185,841,108

(註) ※ は Tcs. 22,174,210 の銀塊輸出(米國向)を含む。

8. 最近三ヶ年泰國貿易國別比率表

	B.E. 2481	B.E. 2482	B.E. 2483
英 帝 國	13.66%	29.42%	13.03%
香 港	6.78	6.18	9.22
ピ ナ ン	18.48	17.81	20.87
新 嘉 坡	19.88	15.38	15.11
日 本	7.11		
米 國 及 屬 領	9.70	4.06	12.67
支 那	4.94	4.92	7.63
和 蘭 及 屬 領	6.75	5.09	3.66
瑞 西	0.90	0.75	0.52
佛 蘭 西 及 屬 領	1.07	0.64	0.45
西 印 度	1.93	1.39	0.35

金 箔	81,098	47,927	nil
阿 片	855,675	40	nil
輸 入 總 額	129,630,731	194,604,122	124,813,908

※ Baht. 64,822,897 の金塊輸入を含む。

(註) B.E. 2483 年の石油類輸入額増大は泰佛印戰の爲め需用激増したことと、一般的には運賃の昂騰による。同年ガニー・バツグの輸入減少は印度に於て割當制を實施し、對泰割當減少に原因する。

B.E. 2483 年の米輸出額増大は單價昂騰に因る處多い、若し B.E. 2483 年に B.E. 2484 年の(一月)―(三月)間の輸出額を加算すればこの十二ヶ月に於ける米輸出額は約一億四千二百萬銖となり、過去十ヶ年に於ける最高輸出額となる。錫、ゴムも亦最高の記録を示してゐる。

6. 最近三ヶ年輸入國別表 (單位 Baht.)

	B.E. 2481	B.E. 2482	B.E. 2483
英 帝 國	31,124,882	※ 98,907,354	23,921,195
香 港	1,002,500	1,361,874	1,828,759
ピ ナ ン	11,902,666	10,342,623	10,530,498
新 嘉 坡	3,702,686	1,435,323	1,527,412
米 國 及 屬 領	8,880,978	13,770,888	34,291,462
日 本	20,271,734		
支 那	16,230,181	17,285,055	16,386,394
和 蘭 及 屬 領	16,592,028	14,659,566	9,221,920
瑞 西	2,996,025	2,533,933	1,614,433
丁 抹	2,014,212	3,752,058	512,851
白 耳 義	1,947,831	1,516,282	850,640
佛 蘭 西 及 屬 領	1,594,080	2,067,088	1,064,525
獨 逸	9,188,914	6,675,851	282,812
葡 萄 牙 及 屬 領	1,563	859	55,589
西 印 度	nil	nil	751
其 他	2,180,451	1,474,750	1,681,728
合 計	129,630,731	194,604,122	124,813,908

(註) ※ Tcs. 64,822,897 の金塊輸入(泰大藏省にて)を含む。

B.E. 2483 年は April-Dec. の九ヶ月である。

B.E. 2481 年は April 1938—March 1939 } である。

B.E. 2482 年は April 1939—March 1940 }

10. 盤谷港船舶出入表

	入 港		出 港	
	船 數	噸 數	船 數	噸 數
Ships cleared with Cargo:				
B.E. 2481	631	859,363	873	1,206,436
2482	579	899,801	947	1,391,469
2483	410	555,678	605	868,268
Ships cleared in Ballast:				
B.E. 2481	257	406,024	14	58,921
2482	380	526,143	14	37,708
2483	215	302,926	11	38,521
Passengers:	Saloon	Deck	Saloon	Deck
B.E. 2481	1,976	30,403	1,145	29,865
2482	1,423	22,212	1,236	16,927
2483	1,203	10,640	789	8,487

(註) B.E. 2483 年は九ヶ月で終つてゐる、然し同年の出入船舶噸數の激減は歐戰及日支事變の影響とみられる、同時に Deck passengers (主として支那人) の激減は移民税の引上げ (現在 200 Baht.) に原因することは明らかである。
船腹の拂底は今や世界的傾向である。

白 耳 義	1.18	0.98	0.27
丁 抹	0.78	1.32	0.17
獨 逸	4.59	2.41	0.09
葡萄牙及屬領	0.52	0.45	0.33
其 他	1.73	1.47	0.66
合 計	100.00	100.00	100.00

(註) 國別輸出入額合計と泰國輸入額合計との比率 (泰國貿易總額を 100.00% とす)

9. 香港、ピナン、新嘉坡の三港より直接又は積替へにて泰國に輸入せられた金額 (單位 Baht.)

	B.E. 2481	B.E. 2482	B.E. 2483
Hongkong	13,263,319	13,843,035	15,501,374
Penang	11,902,191	10,338,654	10,530,221
Singapore	19,972,855	12,004,738	10,546,620

以上の計算を考慮に入れ以上三港と泰國との輸出入額港別表を見れば次の如し。(單位 Baht.)

	B.E. 2481	B.E. 2482	B.E. 2483
Hongkong	34,865,354	37,906,374	42,310,437
Penang	61,750,240	73,238,141	64,836,661
Singapore	82,671,777	73,792,146	55,963,591
合 計	179,287,371	184,936,661	163,110,689

これにより以上三港と泰國との貿易額比率を見れば次の如し。

	B.E. 2481	B.E. 2482	B.E. 2483
Hongkong	10.44%	9.22%	13.62%
Penang	18.49	17.81	20.87
Singapore	24.75	17.94	18.01
合 計	53.68	44.97	52.50
British Euopire	13.66	29.42	13.03
合 計	67.34	74.39	65.53

(即ち Hongkong, Penang, Singapore 三港の占める泰國貿易に於ける地位は斯の如く壓倒的である。)

2480	18,370,251	75,342,512	4.10
2481	25,913,981	97,419,341	3.76
2482	31,537,354	113,299,984	3.59
2483	20,159,930	93,561,129	4.64
年平均	25,848,315	91,950,877	3.62

(註) B.E. 2483 年は西暦 1940 年四月一日より十二月卅一日に至る九ヶ月、米の輸出税は従價税であつて其税率は種類によつて異なる、米輸出課税價格は泰國税關の査定により、年四期に分ち、夫々期間の課税價格が決定される、此の課税價格は實際輸出價格の平均數を以て決定される譯である、輸出價格申告の場合輸出數は單に課税價格を以て申告する事が尠くない、自然實際輸出價格は税關統計に現はれる價格よりも大きいものと考へられるが其程度は推算の由もない。

3. 佛曆 2483 年に於ける輸出米課税價格と輸出税率表

種類	四月一より 六月卅日迄	七月一より 九月卅日迄	十月一より 十二月卅一日迄	税率 單位 % (従價%)
	一擔當り單價 (單位 Baht)	一擔當り單價 (單位 Baht)	一擔當り單價 (單位 Baht)	
White	6.00	5.80	6.75	4.20
White Broken	4.20	4.06	4.73	4.40
White Meal	2.70	2.61	3.04	3.20
Cargo	4.80	4.64	5.40	5.40
Cargo Broken	3.00	2.90	3.38	3.75
Cargo Meal	1.50	1.45	1.69	3.20
Paddy	3.30	3.19	3.72	7.00

4. 盤谷に於ける米相場 (一擔當り市價)

	佛曆 2479 年 (三月卅一日)	2480 年 (三月卅一日)	2481 年 (三月卅一日)	2482 年 (三月卅一日)	2483 年 (十二月卅一日)
	(單位 Baht)	(單位 Baht)	(單位 Baht)	(單位 Baht)	(單位 Baht)
White Rice:					
Extra Super	5.50	4.40	3.90	4.45	7.00
Super	5.15	3.85	3.75	4.20	6.70
Special	5.05	3.75	3.65	4.10	6.90
White Broken Rice:					
A 1 Special	3.90	3.15	2.75	3.80	5.90
C 1 Special	3.70	2.75	2.50	3.25	4.70
C 3 Special	3.50	2.60	2.35	2.90	3.70

附表第二 泰米に關する最近統計表

1. 最近十ヶ年泰國米生産表

年別 B.E.(佛曆)	植付面積 (單位 Rai)	被害面積 (單位 Rai)	收穫面積 (單位 Rai)	粗收穫量 (單位 Piculs)	白米收穫量 (單位 Piculs)
2474	19,317,430	3,184,840	16,132,590	67,808,838	50,856,628
2475	20,086,190	1,264,910	18,821,280	85,273,410	63,955,057
2476	20,283,190	1,444,890	18,838,300	83,462,225	62,596,654
2477	20,854,342	2,524,179	18,330,163	76,629,762	57,472,321
2478	21,110,617	2,542,259	18,568,358	78,783,042	59,087,281
2479	20,363,600	6,450,200	13,913,400	56,330,938	42,248,204
2480	21,062,369	2,666,186	18,396,183	75,928,425	56,946,319
2481	21,918,899	2,365,066	19,553,833	75,394,378	56,545,784
2482	21,649,278	2,447,650	19,201,628	76,007,721	57,005,791
2483	23,793,633	3,576,506	20,217,127	82,055,826	61,541,869
年平均	21,043,955	2,846,669	18,197,286	75,767,456	56,825,591

(註) 1 Rai=1600 square meters. 2½ Rai=1 Acre.
1 picul=60 Kilogrammes.

B.E. 2483 年は西暦 1940 年四月一日より十二月卅一日に至る九ヶ月を以て一年とす、B.E. 2484 年(西暦 1941 年)即ち今年より B.E. 一年は一月一日に始まる十二月卅一日を以て終ることに改正された、B.E. 2483 年は改正の爲めに特に九ヶ月を以て一年と計算してゐる。

B.E. 2482 年以前の佛曆は毎年四月一日に始まり翌年三月卅一日を以て終つてゐる。例へば B.E. 2842 は西暦 1939 年 1st April—1940 年 31st March の十二月の如し。

2. 最近十ヶ年泰國米輸出表

年別 B.E.(佛曆)	輸出米數量 (單位 Picul)	輸出米價格 (單位 Baht)	一擔當り平均價格 (單位 Baht)
2474	22,200,453	77,500,354	3.49
2475	27,867,210	94,200,660	3.38
2476	27,724,631	82,967,330	2.99
2477	33,701,125	98,437,397	2.92
2478	25,029,766	90,835,622	3.63
2479	25,978,445	95,944,444	3.69

キューバ 及西印度	1,494,164 (7,342,403)	1,657,191 (7,636,373)	279,401 (1,512,429)	ナシ 0
南米	382,698 (1,966,214)	569,484 (2,475,137)	154,332 (826,335)	ナシ 0
歐洲	2,827,639 (10,757,331)	4,789,206 (16,436,862)	1,759,280 (6,145,697)	42,390 (221,457)
其他	1,049,944 (3,950,820)	1,388,392 (4,748,462)	省略	省略
合計	24,356,704 (94,953,298)	30,482,266 (104,574,887)	28,129,156 (122,407,277)	12,708,439 (90,855,045)

米價は本年に入つて昂騰をつづけた、本年一月より三月に至る三ヶ月の米輸出量は 6,930,932 Piculs であるが、その平均單價は Baht 7.10 (per picul) であつて以上の輸出金額は Baht 49,198,202 となつてゐる。

佛曆 2843 年の輸出平均單價 Baht 4.64 に比して本年度の昂騰振りを知ることが出来る。

尙本年一月より八月に至る、Thai Rice Co., Ltd. の發表せる米價は次の如くである。

佛曆 2484	柄		
	One Star White Rice	Two Stars White Rice	Three Stars White Rice
一 月 中 旬	6.70 Baht	6.60 Baht	6.20 Baht
二 月 中 旬	7.20	7.15	6.70
三 月 中 旬	7.70	7.60	7.20
四 月 中 旬	9.35	9.25	8.80
五 月 中 旬	9.40	9.30	8.90
六 月 中 旬	9.40	9.30	8.90
七 月 中 旬	9.35	9.10	8.80
八 月 中 旬	9.00	8.80	8.60

註 (單位は Baht 相場は一擔當り)

5. 最近四ヶ年泰米輸出國別表

(本統計年度は泰の米穀年度(前年十二月より當年十一月に至る十二ヶ月)によつた)

(1941 年度は 1940 年十二月より 1941 年六月までである)

單位數量は picul, 1 picul=60 Kilos. 金額の單位は Baht. () の數字は金額である。

仕向地	A.D. 1938 年	1939 年	1940 年	1941 年
	(from Dec. 1937 to Nov. 1938)	(from Dec. 1938 to Nov. 1939)	(from Dec. 1939 to Nov. 1940)	(from Dec. 1940 to June 1941)
馬來	10,629,982 (40,785,061)	12,760,825 (41,742,130)	10,853,881 (44,894,332)	31,327,351 (22,425,146)
香港	5,771,819 (21,385,219)	5,157,721 (17,284,873)	5,707,355 (24,814,787)	2,983,893 (19,980,763)
支那	60,980 (250,076)	213,602 (710,887)	1,972,066 (8,503,323)	1,874,982 (12,739,445)
日本	668,786 (2,605,433)	703,180 (2,517,971)	省略	省略
錫蘭及印度	1,023,830 (3,731,861)	2,518,520 (7,747,188)	1,130,420 (4,627,452)	ナシ 0
南阿及東阿	446,862 (2,178,880)	724,145 (3,275,004)	415,390 (2,230,174)	123,704 (924,490)



933
30

現地報告

933	圖	30	號	年	月	日
泰國現地報告第2号						
泰國主要輸出貨物之概況						
泰國主要物産の對日輸出過程						
備考						

刷印日五廿月 行發日八廿月	
印刷所 三和印刷合資會社 神戸市葦合區北本町一丁目八七	印刷人 中村長次郎 神戸市葦合區北本町一丁目八七
所 目丁四通手山 階三館勵 會協易貿	
七四七七 ②合算話電 三二五七 六六一 內廳縣庫兵 二八五六一戸神座口替振	

933
30

終